



舞岡中学校便り

～ひそかに流れ来る深き響き～

令和8年5月28日
横浜市立舞岡中学校
校長 松本 麻理子

小・中9年間の一貫教育の目標

「主体的な学びを通して、地域を愛し、命・心・夢を大切に成長することも」の育成

PAA21(1年)

4月16日(木)、入学後間もないこの時期に、県立21世紀の森において、「仲間づくり」を目的とした PAA21(青少年教育プログラム)を実施しました。新しい環境のもとでの学校生活が始まり、子どもたちは期待とともに不安も抱えている時期です。こうした時期にこそ仲間との関係を深めることが重要であると考え、校外学習を実施しました。当日は、自然豊かな環境の中で、仲間との協力や信頼関係の構築をねらいとした活動に取り組みました。

活動では、一本の丸太の上に全員が立った状態で、互いに支え合いながら並び順を変える課題や、大型のシーソーの上でバランスを保ちながら移動する課題、さらに全員で大縄をくぐり抜ける課題などに取り組みました。いずれの課題も一人の力では達成が難しく、仲間との対話や協力が不可欠な内容となっていました。

はじめは思うように活動が進まず、戸惑う様子も見られましたが、次第に声を掛け合い、意見を出し合う中で工夫が生まれ、成功へとつながっていく様子が見られました。課題を達成した際には、「やったー!」「イェーイ!」などの歓声が上がリ、仲間とともに達成感を共有する姿が大変印象的でした。

今回の活動を通して子どもたちは、仲間の話に耳を傾けることの大切さや、相手を思いやりながら行動することの重要性、そして困難な課題にも粘り強く取り組む姿勢など、多くのことを体験的に学ぶことができました。また、失敗を恐れず挑戦することや、互いに励まし合うことの大切さについても理解を深めることができたものと考えています。さらに、活動中に気づいたことや学んだことを『ビーイング』(模造紙)としてまとめ、廊下に掲示しました。これらの成果を今後の学校生活に生かし、よりよい学級・学年づくりへとつなげていくことを期待しています。

この校外学習を通して、学年や学級の仲間との関係は確実に深まりました。一方で、協力の在り方や意思疎通の難しさなど、今後の課題も見えてきました。これらの経験を日々の生活や活動に生かしながら、子どもたちのさらなる成長を学年職員全員で支援してまいります。輝け、赤学年☆彡

東京遠足(2年)

第2学年では、校外学習として東京遠足を実施しました。本校での東京遠足は緑学年が初めてであり、出発から帰着まで自分たちで行動する「班別自主行動」にも初めて取り組みました。

当日は、班ごとに計画を立てて都内各所を巡りましたが、班のメンバーとはぐれてしまう場面や、電車の混雑により思うように移動できない場面もありました。また、計画通りに進めることが難しく、その都度、班で話し合いながら行程の見直しを行うなど、状況に応じた判断が求められました。こうした経験を通して、仲間と協力しながら主体的に行動することの大切さを実感する機会となりました。

平和学習では、「帰還者たちの記憶ミュージアム」「昭和館」「しょうけい館」「第五福竜丸展示館」を見学しました。戦時中や戦後の厳しい生活の様子、食料や衣類が不足する中で工夫や苦しみ、家族が離ればなれになる悲しみなどを、実際の資料や展示から学ぶことができました。また、負傷した兵士の過酷な状況や、戦後も続く苦しみなどにも触れ、戦争は終わればすぐに平和が訪れるものではないという現実を知ることができました。

振り返りの中では、「今の生活は当たり前ではなく、とても恵まれていることを実感した」「温かい食事や安心して過ごせる環境のありがたさを感じた」「戦争は人々の生活や心を大きく変えてしまう恐ろしいものだと分かった」といった声が多く見られました。また、「身近なことから平和につながる行動をしていきたい」「学んだことをこれから先に伝えていきたい」といった意識の高まりもうかがえました。

一方で、スカイツリーや浅草など東京の名所を巡る中では、都市の発展や豊かさにも触れることができました。にぎわいのある街の様子を体感することで、現在の社会が平和の上に成り立っていることを改めて実感する機会となりました。

今回の東京遠足は、「平和をつなぐ ～知る・守る・成し遂げる～」というスローガンのもと、平和について学び、社会の中での行動の在り方を考え、仲間と協力して活動をやり遂げる貴重な一日となりました。困難な場面を乗り越えて得た経験は、今後の学校生活や来年度の修学旅行へとつながっていくものと期待しています。

保護者の皆様におかれましては、事前の準備等にご協力いただき、誠にありがとうございました。

修学旅行を終えて（3年） —長崎への旅—

去る5月14日（木）から16日（土）の3日間、長崎へ行ってきました。

■ 1日目 平和への祈りと被爆の記憶

長崎空港に着陸後、市内の平和記念公園に移動。修学旅行実行委員さんたちが準備してきた、平和セレモニーの本番です。2年生のときに各クラスで話し合い、言葉を紡いだ「クラスの平和宣言」、そして平和宣言チームがそれらを一つにまとめた「青学年全体の平和への誓い」を、全員で声をそろえて読み上げました。一人ひとりの思いが重なった言葉が、平和記念公園に響いた瞬間は、感動的な場面となりました。また、学校で全員が心を込めて折った千羽鶴を、慰霊碑の前に奉納したあと、1分間の黙とうをささげ、二度と戦争を繰り返してはならないという思いを新たにしました。

その後、「さるくガイド」の方々と公園内を散策。原爆の爪痕が残る遺構や平和の象徴となるモニュメントについて丁寧に説明いただきました。

また、散策のあとに予定されていた被爆体験講話では、語り部の方が自らの体験を語ってくださり、核兵器の恐ろしさ、平和の尊さを「自分ごと」として受け止める貴重な時間となりました。

~~~~~

### ◆ 被爆体験講話・語り部の方へのお礼の言葉

原爆体験者の証言を聞き、「甚大な被害」という八文字では到底表せない生々しい現実を実感した。教科書と証言の間には埋まりきれない壁があるが、今日「一聞」した私たちにはできることがあるはずで、百聞・一見へと近づく努力が必要だ。唯一の被爆国・日本にいる私たちは、「戦争はやるべきでない」という一点を、遺伝子に刻まれるほどの確信として持ち続けなければならない。原爆も戦争も、土地や国民を守るためではなく、もっと純粋な理由から起きる。その思いをもって、語り部の方への感謝と誓いとしたい。

修学旅行実行委員長

~~~~~

■ 2日目 班別自主行動で長崎を探究

2日目は班ごとの自主行動として、長崎の歴史と文化を自分たちの足で学ぶ一日となりました。各班は「長崎歴史文化博物館」「グラバー園」「出島」「原爆資料館」の4つのチェックポイントを巡り、長崎についての問いにせまりながらの探究活動に取り組みました。

■ 3日目 ペーロン体験でクラスの絆を深めて

最終日は長崎の伝統的な船競漕「ペーロン」に挑戦しました。クラス対抗で競漕を行い、全員で声を合わせてオールを漕ぐ迫力と一体感は、旅の最後にふさわしい思い出となりました。勝敗を超えて、お互いに声援を送り合う姿に、この3日間で培われた仲間としての絆を感じることができました。

◆ 「響かせよう 私たちの平和の音」

1年生の時から考えてきた「平和」という言葉。平和宣言の前文としてもとりあげた、谷川俊太郎さんの「戦争が終わって平和になるんじゃない。平和な毎日に戦争が侵入してくるんだ」という言葉。これらの言葉の意味をこれからも考え続け、横浜での日常生活を充実したものにしてほしいと願っています。

旅行の実施にあたり、保護者の皆様には準備や健康管理など多方面でご協力いただきました。心より感謝申し上げます。この旅で感じたこと・学んだことを、ぜひご家庭でも話題にしていいただければ幸いです。

花壇の花植え

5月19日、正門を入ってすぐの花壇と、2年昇降口に通じる道の右側の花壇で花植えを行いました。「舞岡の会」(OBの会)、「PTA」、そして8組の1・2年生が参加しました。生い茂っていた草を抜いてから、ひまわりなどの花を植えました。登校時に花に迎えられるのは、とても気持ちのよいものです。暑い中(最高気温27℃)ご協力いただき、ありがとうございました。

また、5月23日には「ふるさと舞岡花さかクラブ」の方に2年昇降口に通じる道のところにあじさいの苗木を植えていただきました。

多くの方々に支えられ、花壇が整備されていることに、心より感謝申し上げます。



「鯉のぼりフェスタ」

5月3日、遊水地公園(舞岡小学校の隣)で行われた「鯉のぼりフェスタ」に、本校の美術部と吹奏楽部が参加しました。

美術部は3つの鯉のぼりを制作し、多くの鯉のぼりとともに空を悠々と泳いでいました。

吹奏楽部は約20分間の演奏を披露し、会場を大いに盛り上げました。

両部の皆さんの活躍に、拍手を送りたいと思います。